一二　両部神道両宮大事 りょうぶしんとうりょうぐうだいじ

図書館所蔵、河野文庫一一六号。縦一八・四糎、横三二〇糎。巻子本。草色地朱色菊花唐草文絹表紙。もとは折本と考えられる。料紙楮紙。外題「両部神道両宮大事」、内題「神道両宮社灌頂」「神道熊野権灌頂」「神道三種神祇灌頂」「神道荒神大事」「神道子良子大事」「神道宝剣図大事」、奥書「明応九年卯月吉日授与／阿闍梨我海」とある。

※　　※

本書は、「神道両宮社灌頂」「神道熊野権灌頂」「神道三種神祇灌頂」「神道荒神大事」「神道子良子大事」「神道宝剣図大事」の六つの大事よりなる。奥書には、明応九年（一五〇〇）卯月吉日に阿闍梨我海へ授与されたものと考えられるが、我海なる人物がいかなる人物であったかは不明である。「神道荒神大事」には、「大和國三輪ノ鏡圓聖人伊勢参詣ノ時内宮五十鈴ニテ川西宮ヨリ相承之ヲ」とあり、「三輪鏡圓聖人」とは、三輪上人慶円（保延六年・一一四〇？～貞応二年・一二二三）のことと考えられる。慶円を鏡圓とする例は、『兼邦百首哥抄』にも、神道に四流ありとして「聖徳太子、吉田卜部、弘法大師、善女竜王之説、三輪鏡圓聖人、同前」とみえる。ここでいう「三輪鏡圓聖人」の神道とは、三輪流神道であり、慶円を始祖と仰ぐ。よって、「神道荒神大事」は、慶円と関連づけて大事の相承をのべることから、三輪流神道との関係が想定することができ、その大事を含む本書もまた、三輪流神道と何らかの関係を想定できよう。「神道両宮社灌頂」においては「千刃破我身ハ神ノ社ニテ出入息ハ伊勢ノ内外」との秘歌が記されている。これは、三輪流神道で神祇灌頂の際に用いられる秘歌のひとつである「千早振我加身和神乃社仁天出入留息和内宮外宮」に似る。「神道三種神祇灌頂」においては、三種の神器に「春日　宝剣躰」「伊勢大神宮　神図」「八幡大菩薩　内侍所」として三社をあてる。八幡を内侍所とする例は、永正七年（一五一〇）書写の『日本紀一流之大事』（高野山三宝院蔵）「三種神寶之大事」に、「別内侍所口傳アリ」として「女左半印明ア春日月神」「男右半印明ウン伊勢日神」「左右合圓印明ウン八幡内侍所」とみえる。両部神道における諸大事は、三輪流神道・御流神道の関わりの中で、中世末期から近世にかけて、次第に整理され、『御流神道竪横印信』や『神道八十通印信』等に見える形に整理されてゆくが、本書は、それ以前のものである。

（大東敬明）

【参考文献】

村山修一校注『神道大系　真言神道（下）』神道大系編纂会、平成四年（一九九二）

菅原信海「三輪流神道の形成と発展」同編『神仏習合思想の展開』汲古書院、平成八年（一九九六）